

## 2 - 2 ) 許容応力度計算

### 1. 許容応力度計算設計条件

対象となる建築物

使用可能な開口フレームの種類

- ・新築物件であること
- ・木造建築物であること
- ・在来軸組工法の建築物であること
- ・46 条壁量計算を満足できない場合
- ・フレーム設置個所に裏付けが必要な場合

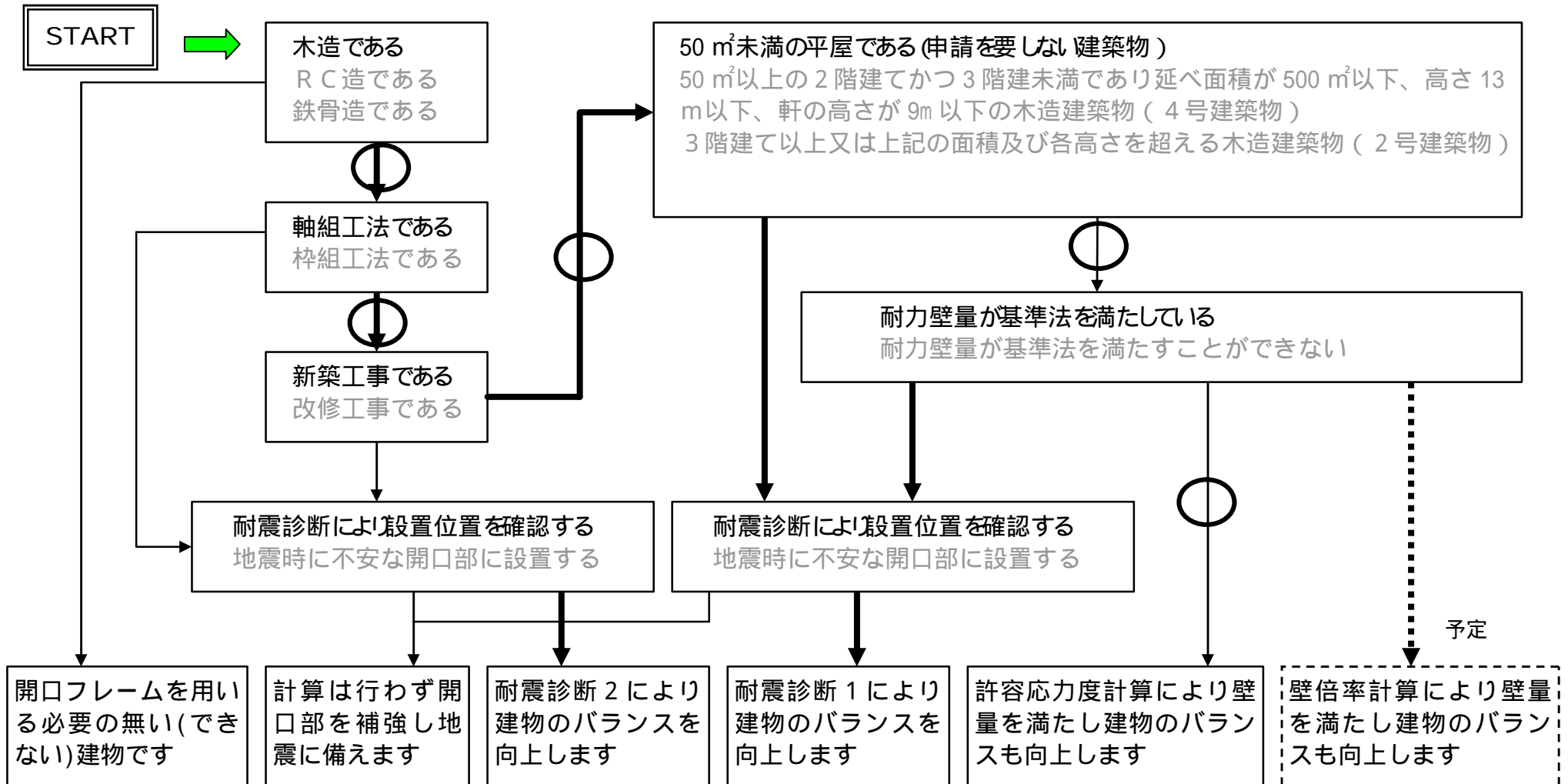
タイプ別性能リストより

TYPE	.....1.0P - 1.5P - 2.0P	TYPE	.....1.0P - 1.5P - 2.0P
TYPE	.....1.0P - 1.5P - 2.0P	TYPE	.....2.0P - 3.0P - 4.0P
TYPE	.....1.0P - 1.5P - 2.0P	TYPE	.....1.0P - 1.5P - 2.0P

### 2. 許容応力度計算設計手順

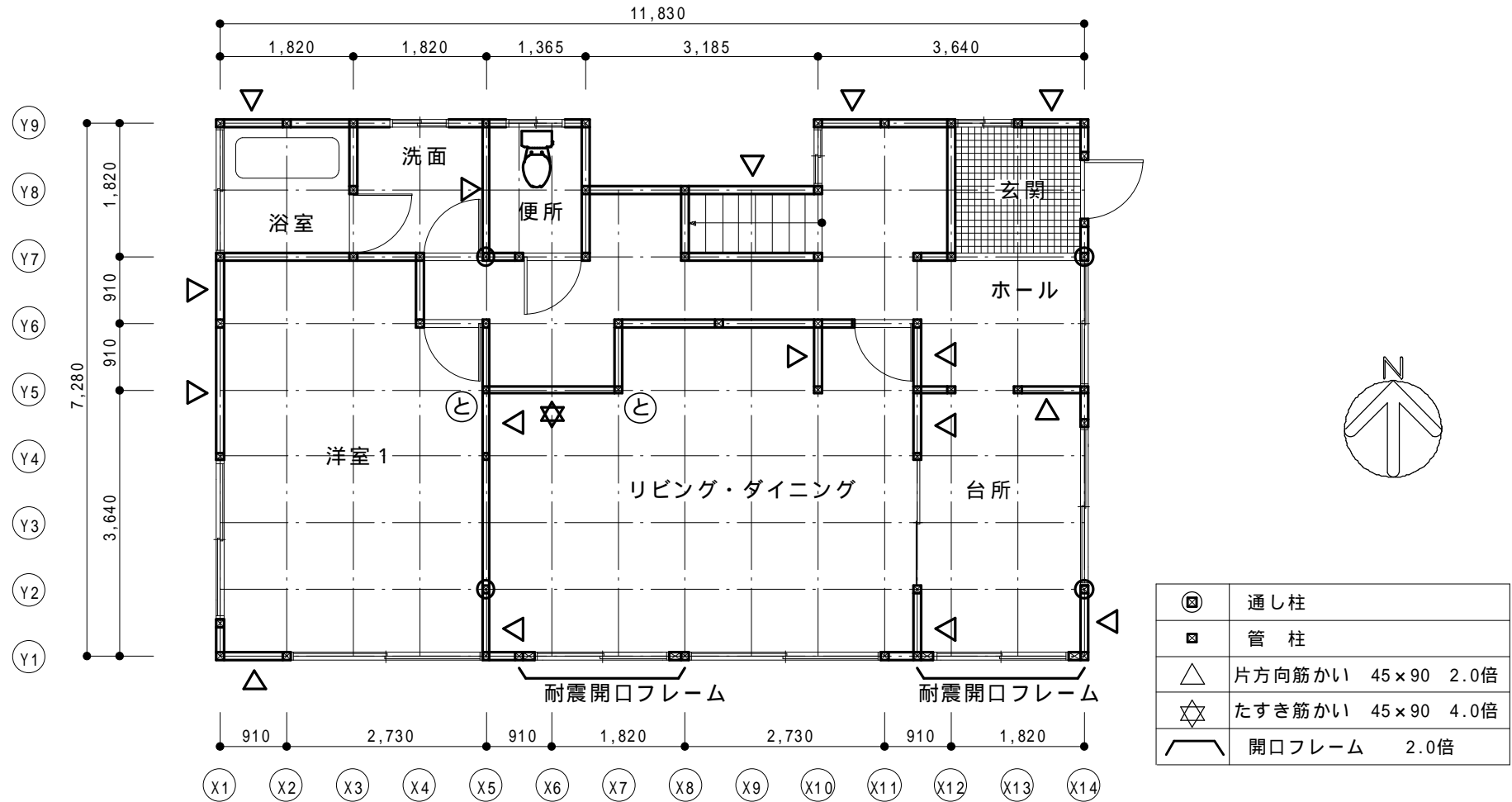
- 手順 1** 適用範囲フローチャートにより許容応力度計算にたどり着くことを確認する
- 手順 2** 耐力壁量が不足している方向を把握した上で、開口フレームを取り付ける開口部を設定する。
- 手順 3** 許容応力度計算にリストから読み取った短期基準せん断耐力を入力する。
- 手順 4** 許容応力度計算により、計算の結果満足していることを確認する。

# 手順 1 適用範囲フローチャートにより許容応力度計算にたどり着くことを確認する



**手順 2** 耐力壁量が不足している方向を把握した上で、開口フレームを取り付ける開口部を設定する。

開口フレームの設置位置を検討する。



1階平面図

**手順3** 許容応力度計算にリストから読み取った短期基準せん断耐力を入力する。

**手順4** 許容応力度計算により、計算の結果満足していることを確認する。

耐震開口フレーム短期基準せん断耐力リスト(kN)

種別	W	1 P	1.5 P	2 P	3 P	4 P	材種	補強方法
	<b>BL(A)G</b>	4.60	5.04(7.09)	5.41			集成材	アラミドシート
	<b>BL(B)G</b>	4.59	4.11	4.52			集成材	引張りボルト
	<b>BL(B)LV</b>	5.51		4.86			L V L	引張りボルト
	<b>BL(A+B)G</b>						集成材	アラミド+ボルト
	<b>BL(A+B)LV</b>						L V L	アラミド+ボルト
	<b>BL(A)LB</b>	5.52	(8.79)	6.05			L V B	アラミドシート
	<b>MI(A+B)G</b>			9.46	9.81		集成材	アラミド+ボルト
	<b>MI(A+B)LV</b>					12.06	L V L	アラミド+ボルト
	<b>BL(A)LV</b>		3.94				L V L	アラミドシート

「 」は実験データがないため、使用上の制限あり

( )内の数値は枠材 120×120 の製材へフレーム寸法 120×150 を取り付け、かつジョイントを設けない場合